

令和6年度（2024年度）熊本市DX推進リーダー育成研修企画提案基本仕様書

研修名	令和6年度（2024年度）熊本市DX推進リーダー育成研修
対象職員	デジタル部職員・庁内希望職員
受講者数	20名～30名程度
開催場所	熊本市が指示する場所
実施予定時期	令和6年（2024年）8月～9月中旬のうちの5日間程度（予定）
実施日程	1日×5回程度（研修時間は自由提案） ※一部オンラインも可
特約	天災地変等の自然的な事象、新興感染症、その他不可抗力による事由により仕様の変更が生じる場合は、別途協議を行う。

研修内容	研修の目的・ねらい	【目的・ねらい】 別添「(参考資料) デジタル人材育成について」における本市のデジタル人材育成像のうち、「DX推進リーダー（一般行政職）」に位置付ける職員を育成するため、実践型のデジタル人材育成専門研修を実施し、この研修を通じて、対象職員が、DXの基礎知識や、BPRの手法を用いた課題設定から解決までのスキル等を習得することを目的とする。 【ゴール】 DXに関する基本的知見を獲得し、それらを土台に熊本市職員が有する課題に対する具体的改善策の策定を行うまでを研修のゴールとする。
	研修に導入を希望するテーマ等	【テーマ】 以下の項目について、研修内容に含めた提案内容とする。 (1)DX基礎知識 ・DXとは何か、DXの必要性について学ぶ。 ・標準化、情報セキュリティ等DX推進にあたって必要と想定されるデジタル知識について学ぶ。 <必要項目> ① 社会全体や自治体におけるDXの定義及び最新事例 ② DXを進める上での心構え・マインドの獲得 ③ 最新のデジタル技術のトレンド 【手法】 ・DX基礎知識の学習については、対面・オンライン形式等問わない。 ・DX基礎知識の学習については、双方向でのやり取りが行われ、習得効果を高める工夫を取り入れること。 (2)BPRの手法 ・受講者自らの職場の解決したい課題を事前提出の後、その課題の分析、あるべき姿の描き方、あるべき姿を実現するための具体的手法を検討するために必要なスキルについて学ぶ。 （業務フローの書き方・構想の書き方等） ・あるべき姿を描いた後、その実現に向け、デジタル技術を用いたロードマップおよび施策実行計画を検討できるスキルについて学ぶ。 【手法】 ・BPRの手法においては、原則講師派遣型のワークショップ形式とする。 ・この間複数回講義をする場合において、講師アドバイス等現

		地開催を必要としない研修回においては、オンライン形式としても構わない。 ・ワークショップ時の各テーブルは5～6名を定員とし、各テーブルのファシリテーションは受講者の持ち回り等で実施できるよう、内容を工夫する。 (3)アセスメント ・研修実施による効果測定を行い、今後の改善テーマ等を抽出するための一助となる情報を提供する。 ・対象は受講者全員とし、アセスメント後の集計および報告を別途行う。 【手法】 ・アセスメントのタイミングや具体的方法については、適切と考えられるものを提案すること
	希望講師数	1～2名程度